

〈発行〉 ふくおか健康友の会
たたら香椎支部 事務局 092 (691) 5615
たたらリハビリテーション病院 社保共同組織委員会

支部では友の会新聞の封筒詰めや手配りをお手伝いしていただける方をさがしております。ご自宅周りでもかまいません。協力していただける方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡ください。

〈お勧め雑誌紹介〉あなたと民医連をつなぐ月刊誌「いつでも元気」定価 380 円。医療・介護など、ためになる情報誌。購読は病院受付へ

病院フロアで「平和写真展」開催しました。 ～広島原爆資料館「市民が描いた原爆の絵」を展示～



原爆が日本に投下されて 73 年がたちました。夏平和企画で、ふくおか健康友の会（たたら香椎支部）主催で、8/3～8/10 で「平和の写真展」をたたらリハビリテーション病院 1F フロアで開催しました。会場には約 130 人の方が来場されました。この取り組みは今年で 13 年目を迎え、戦争の歴史を伝えることで、再びこのような悲劇を繰り返さないようにしようというものです。今回は、広島平和記念資料館よりお借りした「市民が描いた原爆の絵」と DVD「ヒロシマ・母たちの祈り」「ヒロシマの証言」を病院 1 階フロアに展示（30 点）・上映を行いました。記憶が絵で描かれているので写真にはない様子がうかがえ、来院者は絵の前で足を止め真剣な眼差しで見られており、悲惨な状況を感じられたのではないのでしょうか。来場者からは「どんな理由であれ戦争はだめです。被爆国である我々が止めなくては亡くなられた方々、今も苦しんでいられる人々に申し訳ありません」「長崎で被爆者の友人があり被爆者手帳の取得がなかなかできなかったこと。広島の映像とともに思いを寄せてみました」「学童疎開で助かった広島出身の方は多くの方に見ていただきたいですね」と感想を寄せられました。

「市民が描いた原爆の絵」は、1974（昭和 49）年、被爆者が描いた 1 枚の絵がきっかけで、NHK 広島放送局が「市民の手で原爆の絵を残そう」と呼びかけたところ、2,225 枚に及ぶ絵が寄せられました。これらの絵には体験者だけが描くことのできる真実味があり、生々しい迫力で原爆の悲惨さを伝えています。

